ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１４５

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』の振り返りと準備**

**第十二回勉強会（**[**年表**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20141003%20W113%20economic%20substance%20without%20profit/shiryou/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev8.ppt)**項目8：1986年**[**Economic Justice for All**](http://www.usccb.org/upload/economic_justice_for_all.pdf)**出版）の準備（３）：**

**円安により、ドルで見た日本のGDPは急降下中。**

2015.06.12 rev.1 齋藤旬

**休刊予定だったが簡単なものを書く。年末恒例のGDPグラフを異例だが更新することにした。**今週月曜、「内閣府が８日発表した２０１５年１─３月期実質国内総生産（ＧＤＰ）２次速報値は、１次速報値から予想以上に大幅な上方修正となった」と報じられたからだ。

「円安により輸出を伸ばせるとみた製造業が設備投資を増やしたため」というのが、このGDP上方修正の背景にある。つまり、この円安誘導策の成否は、日本の製造業が今後本当に良いものを生み出す力がどれだけあるかにかかっている。即ち海外の消費者から見ると、円安の今、日本製品を「安いから買う」のであって「本当に良いものだから買う」のではない。だから、製造業の設備投資が一巡し円安が収まったあと、新しく製造される日本製品が「安くなくても買ってもらえる本当に良いもの」となるかどうか。これに、今回の「円安誘導策」の成否はかかっている。

上手くいくかどうか、本コラム読者は、私の意見はお見通しだろう。ここはただ、この円安誘導策が如何に「劇薬」であるのかをお見せする。即ち、報じられた「GDP上方修正」とは裏腹に、ドルで見れば[コラム１２５](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20141225%20W125%20Shoup%20Mission/20141225%20W125%20Shoup%20Mission%20rev1.docx)でもお見せした様に、「GDP急降下」が起こっていることを再度確認しておこう。　　　　　　　　　　今週は以上。来週も請うご期待。